

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500357		
法人名	医療法人静光園		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	福岡県大牟田市上白川1丁目246番地		
自己評価作成日	平成25年11月29日	評価結果確定日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ご本人の出来ない事だけでなく、出来る事にも目を向け、活動に活かしている。また、一人ひとりの時間に合わせ、柔軟に対応している。  
併設施設と合同で行事計画、実行する事で、入居者だけでなく、他施設との交流の機会を確保できる。また、地域の方々の催し物への参加も行い、出来る限り開放的な施設を目標に幅広く交流できる環境づくりに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「静光園白川病院」を母体とする「グループホームきらめき」は病院近くに位置し、交通の便も良く散歩時は近くのコンビニに寄ったり、途中で系列事業所等に立ち寄って話をすることも出来る。小規模多機能ホーム、デイサービスと併設した事業所で、3事業所は廊下で自由に行き来でき、合同のレクリエーション等も開催し、協力体制が構築されている。隣に高齢者賃貸住宅と地域交流センターがあり、地域交流センターの「よかばい体操」に毎週参加し、子育てサロンの母子の立ち寄りも定期的にある。地域密着型の意義を踏まえ、地域小中学校の福祉体験等の受け入れ等も活発に行っている。勉強会を通し職員を育成し、入居者が何を望んでいるかを引き出しながら、出来る事に目を向けて楽しみを増やししながら支援を行っており、地域・行政・他事業所等の連携深く、益々発展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践できていないと感じる時もあるが、出来る限り理念を共有し、実践できるよう努力をしている。	開設当初に利用者と一緒に考えた理念の「安心・笑顔・思いやり」を昨年見直し、「感謝」を追加して、スタッフルーム、ホール、玄関に掲示していた。月1回のミーティングで、理念に添った日頃の気付き等を話し合い、年1回の個人面談の中でも理念の実践について、管理者がアドバイスしている。	理念の見直しを行い「感謝」を追加し、理念の実践に努められているが、今後は年1回程度、職員全員で理念の実践状況を、振り返り検討する事で、さらに職員の意識向上に努められる事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には出来ていないかもしれないが、積極的にご利用者と地域交流センターや公民館での地域活動に参加したり、中学生の福祉体験を受け入れたりと地域交流の機会を作っている。	管理者が隣組の組長をしており、公民館活動のスポーツ大会等に積極的に参加し、入居者も個人で老人会に所属し旅行等も楽しんでた。地域交流センターで地域参加の事業所合同のクリスマス会を開催したり、地域の方に事業所に立ち寄り貰う等の積極的な交流が勧められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と認知症の方(利用者)の交流の機会を作り、職員の関わりや利用者の出来る事などを地域の方に知って頂き、認知症の啓発につながっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には人員の問題で現状グループホームからは管理者しか参加出来ないが、会議にて、実際のサービスの実際について話し合い、意見や助言を参考にし、管理者の言葉、関わりの中で職員に還元している。	定期的に運営会議を開催し、併設の事業所、家族・利用者・民生員・地域の方・包括支援センター・長寿社会推進課等も出席し、2カ月に1回事業所発行の「きらめき便り」も会議に掛けて見直し、発行していた。運営会議で検討した内容を改善につなげ、運営に活かされており、改善結果を「きらめき便り」で報告している。	定期的に運営会議が開催され、事業所運営に生かされているが、家族の参加が少ない状況の為、運営会議の開催の案内を「きらめき便り」等で家族に行い、参加を促してはどうか。また、会議議事録も送付等を行うことで、情報の共有化が図られる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から積極的には取り組めていないが、必要に応じ、連携をとり、協力関係は築いている。	運営会議には市職員等の出席もあり、手続きも直接出向いて行い、日頃より馴染みの関係の構築は出来ている。判断に迷う時は相談し、助言を受け事業所運営に生かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制はせず、ご利用者の能力を信じ、行動、活動をして頂いている。日中は施錠せず、見守りにて対応し、夜間は防犯のため施錠はしているが、内側から解錠しにくいような複雑な施錠はせず、出て行かれた事が分かるようにセンサーだけは設置させていただいている。	玄関の施錠は行っておらず、身体拘束もしていない。併設の3事業所への通路の扉も施錠はしておらず自由に行き来出来る。身体拘束についての研修も、関連6事業所合同の主任クラスの毎月の研修会に含まれており、研修後にDVD等で内部研修を行い周知を図り、事業所全体で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度の研修では虐待については行ってないが、職場全体で虐待防止に努め、声かけにおいても指示的にならないよう配慮している。		

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修においては行えておらず、理解は不十分だが、ご利用者との関わりの中やミーティングにおいて、権利擁護を元に意見交換を行っている。	成年後見人制度を利用中の利用者はいないが、利用検討中の利用者がおられ、管理者が意向の確認を行い、包括支援センター等に相談しながら対応している。	管理者に相談出来る体制は整えられているが、職員の権利擁護の理解が不十分な為、外部研修後に、内部へ伝達研修を行ったり、今回の事例を通し内部研修を行い、パンフレットも設置し全職員の理解を深められる事を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス内容や料金、利用にあたり予測されるリスク、他のサービスについても説明を行い不安なく利用に繋げる事ができるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の職員とご家族の関わりの中で意見、要望を洗わせるよう配慮を行っている。また、病院、市、県の苦情相談窓口の案内もしている。	意見箱も設置していたが、意見が出ない為取り外している。意見や要望は家族の面会時に聞き、内容に応じてその場で対応したり、運営会議で検討した結果を回答し、職員には申送り簿やケア改善ノートで共有している。	家族の面会時に意見や要望を聞き、運営会議等で検討され改善されているが、意見は少なく、運営会議への家族参加も少ない為、今後は食事会等を通して、家族との交流を通し、意見の抽出等図られる事が望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや月1回のミーティングを通し、話す機会を設けるよう努めているが、十分に設ける事ができないこともある。	職員が自己評価表を作成し、月1回数人ずつの個人面談が行われているが、いつでも相談出来る体制は整えられていた。職員の勤務人数が多い時には、職員の提案で即日に出外の個別ケアを行なう事もでき、職員の意見が積極的に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員や残業などの相談は受けて頂いている。また、休暇においても安定して確保でき、就業環境の整備に努めて頂いている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、性別、年齢による制限はなく、社会参加や自己実現の権利は保障されている。	20～60歳代の職員が採用されており、年齢による採用の制限は無い。介護福祉士の資格取得を目指す4人の職員の希望の休みも取られていた。職員の趣味を生かし、事業所内の飾り付けや習字等も行い、管理者の作業療法士より、リハビリの指導を受け、事業所内で活用する事も出来ていた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者を通し、人権を尊重することをベースとして、必要に応じ指摘を行っている。	職員全員で、利用者を先輩として敬い、日々の声掛け等に大きな声や大きなリアクションしない、羞恥心に配慮した声掛けを行っており、職員同士も注意し合っている。	日常的に利用者を尊重した声掛け等が行われているが、さらに職員の理解を深める為に、実務者研修の資料等を利用し、高齢者等の問題から幅広い問題を取り上げて内部への伝達研修や、人権週間等を利用した取り組みが行われる事を期待したい。

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者に一任されており、現在十分ではないが、自己研鑽の機会を確保できるよう努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流は研修を通して取り組んでいるが、法人外の交流に関しては、各自で取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人の安心に繋げる事ができるよう、本人、家族の声に耳を傾け、必要に応じ、体験利用などの対応を行い、関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時だけでなく、利用開始後も職員全体でご家族の不安や要望に耳を傾け、出来る事は対応し、出来ない事は出来ない理由を説明し納得して頂いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申しもみや施設見学の段階から本人、家族が困っている事に耳を傾け、在宅で生活し続けることを第一選択として他サービスの紹介等行い助言するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に過ごし、話をする中で新たな発見ができるよう努め、生活を共にする関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況をご家族へ報告する際に、ご家族の意見も頂くようにし、共に支えていく関係を築いて行けるように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用されていた美容室を継続して利用したり、自宅へ帰る機会を設けたりと努めているが、十分ではない。	利用者の隣人の面会等もあり、継続して馴染みの美容室や病院も利用でき、自宅へ帰宅希望の方の外出支援も行っている。利用者の特技の習字や歌や踊りの趣味を生かした支援や取り組みも行っていった。	

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性に配慮し、さらに一方の利用者が孤立してしまわないよう日々考え配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めているが、入院先の病院へ足を運ぶ機会が無くなってしまふなど不十分。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向の把握に努め、ミーティング、モニタリングを通し、職員で共有できるように努めている。	病院の退院前に外出で2~3回事業所で過ごして貰い、退院時の病院のカンファレンスに、職員が立会い情報を得ている。包括支援プログラムでアセスメントを行い、意思疎通が難しい方は関わりの中での表情や態度から汲み取り、家族と情報交換を行い、意向を把握し利用者が何を望んでいるかを考えながら支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーを中心に情報を収集し、生活歴や利用の経緯などを把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリング等を通し、ご利用者の現状を把握している。また、日によっても状態は変化するため、変化を見落とさないよう観察、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見をもとにプランを作成し、プランと日頃のご本人の状況を見比べながらモニタリングを行っている。	職員1名が入居者1~2名を担当し、状態に合わせて、随時や3か月に1回モニタリングを行っていた。担当職員が中心となり、事前に家族に聞き取り、医師や言語聴覚士等に留意点の情報を得てカンファレンスを行い、プランを作成している。特記事項は申し送りノートですぐ伝え、出来たプランは職員と共有して、介護計画に添った支援を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事などは個別記録に記入しているが、主に「ケア改善ノート」を設け、意見交換、ケアにおける情報共有を図っている。		

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分ではないが、可能な限り本人の意向に沿った生活支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の暮らしを支える地域資源の把握が不十分であるが、本人が心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむ事ができるように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人、ご家族の要望に任せている。また、主治医が母体病院でない場合でも風邪等の軽微な症状であれば、看護師、母体病院と連携し、助言を頂いている。	以前からの掛りつけ医の受診時は、前日の施設での状況等を、メモや口答で家族に説明していた。家族が同行出来ない時は職員同行で受診出来、受診結果は家族に電話等で連絡し、個別ファイルに綴じて、職員に申し送りして伝え共有している。事業所提携医の往診も2週間に1回あり、施設で予防接種等を受ける事ができる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師に異常があれば報告し、必要に応じ、病院へ連絡を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	十分ではないが、病院関係者との関係作りも行っており、早期に退院できるよう積極的に相談を行っている。また、入院中も本人が安心して治療を受けられるよう定期的に面会等を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族へ説明を行い、早い段階から終末期の方針をキーパーソンだけでなく、ご家族全体で検討頂けるよう説明を行っている。また、終末期の支援としては、ご家族主体である事を前提として、看取り支援も選択できるような環境整備を行っている。	今まで看取りを行った事は無いが、看取り希望時に対応していく指針は出来ている。医療介護連携会議に管理者も出席しており、母体の病院等の協力の下、併設事業所の協力も得て、協議しながら、看取りを行っていく方針である。	入居時に家族全体で終末期の事を話し合い、考えて貰う様にし、事業所で看取りを行う方針が進められているが、看取りに向けての職員の勉強会はまだ行われていない為、重度化に向けた心構えやケア等についての勉強会を行い、理解を深められる事が望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生や応急手当の研修を定期的に行っており、実践力向上に努めている。		

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、風水害、地震等の災害時マニュアルを作成し、災害時の訓練を行っている。また、十分ではないが、地域にも声をかけ、協力体制の構築を図っている。	年2回昼夜想定して、消防署立会いの下、地域の方も参加して防災訓練を行っていた。火災以外は併設の広いデイルームを避難場所に設定し、火災は福岡県の防災マニュアルで避難場所の見直しを行い、数か所の避難場所をA4用紙にまとめて作成している。備蓄の準備も母体病院に許可申請中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳をもって、自尊心を傷つける事のないよう配慮している。また、尊敬を持って接するよう心がけている。	年1回、母体の病院の派遣講師による内部研修を行っている。入居者の部屋は自宅と同様の考えで、表札も家族に作成して貰っている。名前の呼び方も家族や入居者に聞いて、家族からいつも「お父さん」と呼ばれていた方は、職員も「お父さん」と呼び、慣れた呼び名で、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を確認し、可能な方には自己決定の機会を提供できるよう配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ていない事もあるが、忙しいときでも忙しさを感ぜられないよう配慮し、業務優先とならないよう日々注意して努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じような服装とならないように配慮し、可能な方はご自分で選べるような関わりを行っている。また、外出の際は化粧をするなどの支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に出来る事を探し、出来る限り準備や片付けと一緒にしている。また、メニューの希望は利用者自らは見られないが、あまり好まれないものは避けて、一人ひとりに合わせて食べやすい形態等の配慮をしている。	献立は職員が考え、遅出職員が、時々入居者も同行して毎日新鮮の材料の購入に出掛けていた。広いカウンターで利用者もエプロンを付けて、材料の皮むき等を手伝い、希望や治療食等も対応出来る。行事食や、お弁当を購入したり、ラーメン等の出前を取ったり、バイキングの外食も行い、楽しめている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が少ない方には促し、多すぎる方には過剰摂取とならないような対応を検討している。また、月に1回体重測定を行い、体重の推移を元に食事摂取について検討している。		

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な方はご自分で口腔ケアを行っている。出来ない方も毎日実施出来ないが、本人が受け入れられる際に口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中と夜間では異なるが、本人の状態、意向に合わせ、出来る限りご自分の力で排泄できるよう支援している。また、失敗を減らす事ができるよう排泄パターンや関わるタイミングなど日々調査し、検討している。	個別の排泄チェック表を作成し、排便コントロールは入居後、2週間のリストを取り把握していた。昼夜ともなるべくトイレに行って貰い、失敗時は周囲に判らない様に声掛けし、誘導して介助を行っている。ケアノートで検討して、紙パンツ利用の方が、昼は布パンツ使用、夜間にパットを使用する程度となり、改善にもつながった。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り薬の使用は最小限に出来る事を目標とし、医療機関や看護師と相談し、本人の負担が少なくなるような排便コントロールに努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間帯の入浴は出来ていないが、無理強いはせず、定期的に入浴できるような環境作りは努めている。	個浴で毎回お湯の入れ替えを行い、好みの湯温で入浴できる。週2~4回入浴で好みの時間や一番風呂も対応でき、入浴剤は保湿を兼ねて毎日使用し、ゆず湯等も行っている。好みのシャンプーや石鹸の持ち込みも可能である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子を意識しながら日中に休息を入れるなど、出来る限り本人に負担の負担、疲労が少なく、本人のペースで暮らす事ができるよう配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に重要な薬剤に関しては目的や副作用等は理解している。用量等は把握しており、毎回設置時と与薬時に確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現状十分には出来ていないが、どのような事を好まれるのか、楽しみごととは何かなどの情報収集に努め、今後支援出来るよう努めていきたい。		

自己・外部評価表H25(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には行えていないが、散歩や買い物、ドライブ等可能な限り支援している。	天気の良い日は毎日の様に、車椅子の入居者も散歩に行き、週1回は交流センターの体操に参加し、近くにコンビニに時々買物に寄っている。個別支援で「ドライブに行きたいや、海に行きたい」等で月2～3回はドライブを行い、年1～2回事業所全体で花見のドライブに、家族参加で出掛けており、外出の機会が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は支援しているが、管理できない方に関しては、支援出来ていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は行えているが、出来ない方や望まれない方が多いため、現状支援には至っていない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、季節感を感じて頂けるような飾り付けを行うよう努めている。	廊下や居室の床はコルク材使用で、電動ベットやエアコンが備え付けられ、入居者の馴染みのテレビ・筆筒・ソファ・衣装ケースや洋服掛けが置かれ、入居者が作成した貼り絵や習字が壁に飾られていた。家族に相談したり、職員が動線を考えて配置を行い、動きやすいくつろげる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や共用のホールを活用し、その時のご本人の要望やご様子に応じて、選択できるよう努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り以前から使用していた枕や家具などをご持参頂けるよう努めている。	事業所の中央に吹き抜けのテラスがあり明るく、その周りが回廊式の廊下で、リハビリ時の歩行訓練等に利用されている。ホールの横の調理のカウンターから見える位置に大小の提灯が吊るされた多目的な和室のくつろぎスペースがあり、入居者全員の手形で紅葉の木の作品が壁に貼られ、廊下には至る所に可愛い小物が飾られ温かみのある、和やかな空間となっていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が可能な方は、本人の状況に応じ、出来る限り手すり、シルバーカーを使用した歩行で移動を促すよう努めている。		